

1 背景

- ・ 広大な県土にへき地・離島が存在、医師数が47都道府県で最も少ないが、ICT基盤は比較的整備済
- ・ これまでのヘルスアプリの主要目的は、「都会の利便性向上」が多く、地域の「真の課題解決」に資していない

2 現状の課題

- ・ 医療・介護・ヘルスケアのデータやアプリを自在に取り扱えるテック企業・人材が少ない
- ・ 同データを活用した応用・実証事例が新潟、全国とも少ない

3 事業の目的

- ① 集めたデータやICT等の「**活用の好事例**」を複数確立 ⇒ 全国発信
- ② **ヘルスケアICTを活用して地域課題の解決を行う「人材育成」**
- ③ ①②を継続してサイクルに実施できる**バリューチェーンの確立**



4 これまでの取組

- ① 医療・介護データの連結・顕名データを15以上の市町村から収集済み = **ヘルスケア情報基盤プロジェクト**
- ② MBA保持医師らとともに、デジタルヘルス人材を育成中 = **ヘルスケアアカデミー**
- ③ ①②の取組と並行して、救急 / 小児周産期 / 糖尿病 等の課題を解決するプロダクト開発にチャレンジ中

3 すべての人に
健康と福祉を



5 事業内容

① 自由度の高い医療介護ビッグデータ解析プラットフォーム

- ・ 米国のH-CUP※のように、匿名性を保持し、個人が特定できないよう配慮された研究用の個票データベース作成。（※ Home. Healthcare Cost and Utilization）
- ・ さらに、疾患や診療行為をチェックリスト化し、簡易に臨床研究モデルが組成可能なBIツール（諸外国に実例あり 例：AETION）を新潟で実装。
- ・ 複雑、かつ、医療介護現場実務理解度が高いことが求められ、解析は容易ではないとされた医療介護データの解析の閾値を大幅に下げ、日本企業がヘルステック分野で大きく成長するための足がかりとする。

② ヘルスケアアカデミー

人材育成コース



一流の講師陣から課題発見と
解決スキルを習得する実践型講義

コミュニティ



医療・ヘルスケアに課題を
感じる人々が集うコミュニティ



(1) 医療介護ビッグデータ解析プラットフォーム

- ① 県 : 医療介護ビッグデータの**自由度の高い解析基盤と世界レベルの解析ノウハウの確立**
- ② 企業 : 医療介護データへの**深い構造理解と、実用性の高い解析ノウハウの蓄積および専門性の高い人的ネットワーク形成**

(2) にいがたヘルスケアアカデミー

- ① 産学官問わず、医療・ヘルスケア分野に課題意識を持つ人々の「**集いの場**」づくり
- ② ヘルスケアICTを活用し、地域課題を解決していくための「**継続した**」土壌づくり

アカデミーの詳細は「コユルト」で検索！ (note, twitter)

企業様に求めるもの

民間のビジョン・視点を
ぜひわが県の人材育成に！

- ① 不確実性/難易度の高いプロジェクトの**サポート精神・チャレンジ精神**
- ② **医療介護データが日本のテクノロジー成長を牽引する**という高いミッション感

- ① 人材育成・コミュニティ・イベント運営への**経済的支援**
- ② ソフト支援（講師派遣、人材育成やイベント開催の**ノウハウ、人脈**等）
- ③ ヘルスケア人材育成に対する**高い課題感**

企業様のメリット

- ① ヘルスデータを活かした**最先端プロジェクトへ貢献する企業**という付加価値の獲得
- ② ヘルスデータに関する**パートナーシップへの関与**

- ① ヘルスケア人材育成に、**新潟県とともにチャレンジしているという企業イメージ**の獲得
- ② 共催者として、**各種イベント等での企業名の紹介**
- ③ 新潟県との**連携 / 参入の契機**に

1
得られる
成果等

2
寄附を
する
メリット等